

灼熱の調布駅頭に 1000 人 市民と野党が共同する 新しい風景



6月27日、灼熱の午後、宇都宮けんじさんを迎えての大街宣。1時間ほど前から駅頭には立憲民主党、社民党、日本共産党ののぼりが掲げられ、新婦人のスタンディング・パネル宣伝のみなさんも顔をそろえました。聴衆は開会後には1000人近くまで膨れ上がりました。

田中とも子都議候補はコロナ禍で「補償のない自粛」で大変な困難にさらされているみなさんの支援のために都議会で働きたい、保健所を復活させたい、などを語り、立憲民主党の山花郁夫衆院議員は長妻氏も駆けつけていると紹介しつつ、東京にカジノは要らない、障がい者に優し

い社会、民主主義の力を信じて、宇都宮都知事とこれをサポートする田中都議の実現を、と訴えました。社民党の福島瑞穂参院議員は、宇都宮さんは弱い人を救済できる、派遣村の名誉村長も務めた信頼できる人と紹介し、国政・都政を変えよう、と呼びかけました。共産党の小池晃参院議員は、国と都のコロナ対策の問題点を指摘し、東京アラートはレインボーブリッジを赤くしただけ、コロナよりオリパラと自分の選挙を優先する都知事ではダメ、公約破りを重ね、医療介護をおろそかにする小池都知事は許さないと語りました。前川喜平さんは、安倍の休校は子どもたちを家に閉じ込め、給食を奪い家庭内虐待にさらし、学校を通じた生存権を侵したのではないかと糾弾。宇都宮・田中両氏への支持を表明しました。

宇都宮けんじ候補は、「パフォーマンス、カタカナ言葉のごまかしを批判し、いま病院を支援しないと都民の命と健康は守れないときっぱり。看護師、医師が貧困な条件のもとで命がけの奮闘をしている実態を紹介し、財政的援助が必要だと訴えました。都財政1兆5千4億を、道路計画を見直すなどして、都民の福祉の増進に回したい。各野党・市民のみなさんとともにたたかっていて、手ごたえを感じる。田中さんと一緒に都政に乗り込みたい」と訴えました。写真は左から小池・宇都宮・山花・前川・福島のみなさん。(戦争はいやだ調布市民の会「伝言板」667号6/28)

小金井 宇都宮さんを都知事に 市民集会



6月28日、小金井の宮地楽器小ホールで連絡会(うつけんサポーターズ、立憲、共産、緑)の「宇都宮さんを都知事に」の市民集会が40名の参加で行われました。市議会からは

立憲、共産、緑の議員が参加。北多摩医療生協理事長からコロナ感染対応の医療現場の厳しい実態、経営危機が語られ医療への財政支援の必要性が訴えられました。新婦人の支部長から学生、若者、非正規への支援が呼びかけられました。都道建設に反対する市民から宇都宮さんが現地を訪問され、中止を明言されたと報告。池末弁護士はサラ金問題での活躍、多くの弁護士から信頼されていると語られました。最後に川名立憲民主武蔵野市議から都知事選挙の現状の報告。

連絡会では26日武蔵小金井駅前40名で宣伝行動を行っています。写真は28日の集会と20日の街頭宣伝。(吉武)